東 京 大 学

東洋文化研究所要覧抄

昭和40年5月

C 3
45
S40

東京大学東洋文化研究所

東京大學圖書
<10>6470039998
東京大学東洋文化研究所

東洋文化研究所図書

I 沿　　革

本研究所は，昭和16年11月26日，勅令第1,012号をもって，東京帝国大学に附置創設された。当初は哲学・文学・史学部門，法律・政治部門，経済・商業部門の3部門で発足したが，官制公布後まもなく太平洋戦争勃発という不測の情勢変化のため，拡張計画は中絶を余儀なくされ，戦後ようやく昭和24年1月にいたって新たに3部門の増設を認められた。その結果，部門組織を細分して，哲学・宗教部門，文学・言語部門，歴史部門，美術史・考古学部門，法律・政治部門および経済・商業部門の6部門に再編成し，ついで昭和26年に文化人類学と人文地理学，さらに昭和35年には研究体制を地域区分に対応させて整備する将来計画にもとづき南アジア，昭和39年に東北アジア部門の増設が認められ，計10部門を擁することとなった。

II 目的と構成

本研究所は，日本を含むアジア諸地域の政治・経済・社会・文化などの組織的，総合的研究を目的としている。もちろん，現在の程度の規模をもってしては，広汎なアジア諸地域における諸般の問題を同時に究明することは望みえないので，研究者の専門にしたがって，重点的に課題を選ぶとともに，各専門分野の孤立を避けるため，合同の研究会によって研究者間に共通の問題意識を育てつつ，個別的には達成しがたい総合研究の実を挙げるよう努めている。また，研究陣容の補強を図るため，毎年の研究計画に従って，学内および学外からも専門研究者に研究を委嘱し，研究班に協力を求める方針をとっている。アジア諸地域の研究が，戦後はとくに問題山積の状況にあり，今後とも重要性が増大する一方であること，本研究所が現在，アジア研究のセンターとして，本学に特設された唯一の研究機関であることを考え合わせると，この程度の組織機構

A33380

では，まだいかにも不十分である。従来日本の学界に蓄積の乏しい領域を開拓すべき研究者の養成に努力しつつ，地域全体を対象とした初期の学科別部門編成から，さらに東アジア，東北アジア，東南アジア，南アジア，西アジアおよび内陸アジアのような地域区分にしたがって，これらの研究部門を整備し得る規模にまで陣容の拡大されることを期待している。

Ⅲ 設　　備

1. 建　　物

本研究所は，当初，本学構内に建物をもつことが予定されていたが，戦争の拡大により計画の実現が不可能となったので，暫時，本学附属図書館内に研究室，書庫，事務室を置いた。昭和23年4月1日，外務省所管の東方文化学院の解消をみるに及んで，同年7月に同学院東京研究所の所在地であった大塚に本拠を移すこととなり，外務省研修所と同居という暫定的な形で，旧学院の建物の一半を使用し，従来利用していた附属図書館研究室の一部を分室とした。このように，研究施設としてまことに遺憾の多い状況のまま20余年を数えるにいたったが，さいわい本学構内に建物を新築する計画が具体化し，目下その一部の工事が進められている。

2. 図　　書

本研究所に収蔵する図書資料は総数260,000冊に及び，平均年間約5,000余冊づつ増加している。収蔵するに至った主なものをあげると，創設当初，大木幹一氏から中国法制関係書を主とした漢籍45,000余冊の寄贈があり，附属図書館からも相当数の東洋学関係書が移管された。東方文化学院解消後は，同学院蔵書10数万冊（和漢洋）をも使用することとなった。また，帝国学士院東亜諸民族調査室の解散に伴ない，戦後その蔵書2,000冊（和漢洋）の移管を受けた。

文部省科学研究費交付金による購入書としては，昭和25年度に松本忠雄氏旧蔵の東亜外交関係書3,000余冊（和漢洋），同26，28年度に長沢規矩也氏所蔵の多数の希覯書を含む中国戯曲小説関係書3,000余冊（漢）があり，さらに同27，28両年度には矢吹慶輝，清野謙次両氏の旧蔵書800余冊（洋）を購入したが，これは前記帝国学士院からの移管書とともに人類学・民族学関係の重要資料となっている。また昭和33年度から，文部省科学研究費による総合研究「アジア地域の社会」および「アジア・アフリカ地域研究」の一環として関係資料の蒐集に努めている。昭和27年度から5カ年にわたり下中弥三郎氏より，主として戦後中国・朝鮮で刊行された人文・社会科学関係書4,000余冊の寄贈を受けたが，その後も鋭意蒐集を継続している。なお，最近，東京銀行調査部から主として経済関係の図書15,000冊（和漢洋）の寄贈を受け，目下整理中である。

Ⅳ 刊　行　物

1. 定期刊行物

(1) 東洋文化研究所紀要　昭和18年12月に創刊，同40年度に第40冊まで刊行する予定。第10～12の3冊と第25～28の4冊は，それぞれ本研究所創立15周年並びに20周年記念号である。

(2) 東洋文化　昭和19年10月に創刊し昭和24年5月にその第11号を発行した「東洋文化研究」を継承したもので，昭和25年2月に創刊，同40年度に第41号まで発行する予定。

2. 報　告　書

(1) 東京大学東洋文化研究所紀要別冊

		発行年月
仁井田　陞	中国の農村家族	27. 8
周藤吉之	中国土地制度史研究	29. 9

大林太良	東南アジア大陸諸民族の親族組織	30.10
結城令聞	世親唯識の研究　上	31. 1
関野　雄	中国考古学研究	31. 3
窪　徳忠	庚申信仰	31.11
仁井田　陞	中国法制史研究　刑法	34. 3
仁井田　陞	中国法制史研究　土地法・取引法	35. 3
米沢嘉圃	中国絵画史研究	36. 3
結城令聞	唯識学典籍志	37. 3
仁井田　陞	中国法制史研究　奴隷農奴法・家族村落法	37. 3
築島謙三	文化心理学基礎論	37.11
窪　徳忠	庚申信仰の研究　年譜篇	37.12
仁井田　陞	中国法制史研究　法と慣習・法と道徳	39. 3
鎌田茂雄	中国華厳思想史の研究	40. 2
江上波夫	アジア文化史研究　要説篇	40. 3

(2) 東京大学イラク・イラン遺跡調査団報告

テル・サラサート　I	33. 3
マルヴ・ダシュト　I	37. 3
マルヴ・ダシュト　II	37. 3
ファハリアン　I	38. 3
西アジアの人類学的研究　I	38.11
デーラマン　I	40. 3

V　海外学術調査

本研究所が海外で行なっている調査研究事業としては，つぎのふたつが注目される。

1. 江上波夫教授を団長とする東京大学イラク・イラン遺跡調査団は，昭和

31～32年，35年，39年の4回にわたって，イラクおよびイランにおいて6ヵ所の古代遺跡の発掘を行ない，「文明の起源とその初期の様相」の問題という人文科学における世界共通の現代的課題の解明に努力し，また「東亜及び日本古代文明の源流としての古代イラン文明」というわが国にとって特別関心のある問題の究明に努めている。

2. 山本達郎教授を団長とする東京大学インド史蹟調査団は，13世紀より16世紀にいたるインドのイスラム系遺跡の研究を目的とし，昭和34年，36年の2回にわたって，デリー周辺地域における諸遺跡，とくに墓，モスク，水の利用に関する建造物などを調査し，目下その報告書を作成中である。

附表 1. 東洋文化研究所部門別教官配置

汎アジア経済

教授　川野重任　　講師　松井　透

汎アジア人文地理学

教授　飯塚浩二　　講師　大野盛雄

汎アジア文化人類学

教授　泉　靖一　　助教授　中根千枝　　講師　築島謙三

東アジア政治・法律

教授　福島正夫

東アジア歴史

教授　江上波夫　　助教授　松本善海　　佐伯有一

東アジア美術史・考古学

教授　米沢嘉圃　　助教授　深井晋司

東アジア哲学・宗教

教授　小口偉一　　講師　鎌田茂雄

東アジア文学

教授　窪　徳忠

東北アジア

教授　関野　雄　　助教授　鈴木　敬

南アジア政治・経済

教授　橋本秀一　　(併) 山本達郎　　助教授　荒　松雄　　山崎利男

助　　手

板垣雄三　　木山英雄　　松丸道雄　　甘粕　健　　山下米子　　月輪時房　　梶村秀樹　　黒田和彦　　山之内正彦　　榎本暢子　　浜島敦俊　　松谷敏雄

附表 2. 昭和40年度共同研究課題

◎ 研究担当
○ 研究委嘱

Ⅰ アジア経済秩序と発展の構造

班主任 教授 川 野 重 任

川野 重任　アジア経済成長の類型分析
——台湾の事例研究——

○原 覚天　アジア諸国経済発展における援助問題

Ⅱ 西アジア研究

班主任 教授 飯 塚 浩 二

飯塚 浩二　イスラームとアフリカ

小口 偉一　バハイズムの展開過程

○加賀谷 寛　西アジアにおける近代思想運動

大野 盛雄　イラン農村の社会経済構造

板垣 雄三　アラブ民族主義の歴史的展開

Ⅲ インドにおける支配体制と社会構造

班主任 助教授 荒 松 雄

山崎 利男　インド古代の支配体制と社会構造

荒 松雄　ムスリム支配体制とインド社会

松井 透　イギリス植民地支配下のインド社会

榎本 暢子　イギリス植民地支配下の土地制度

○中村 平治　独立後のインドにおける政治過程

○古賀 正則　独立後のインドにおける国家資本主義

山崎　利男　　現代インドにおけるヒンドゥー法の展開

中根　千枝　　現代インドにおける家族構造と血縁・婚姻組織

Ⅳ　新旧両大陸における文明起源の比較研究

班主任　教授　泉　　靖　一

江上　波夫
◎曽野　寿彦
深井　晋司
○増田　精一
松谷　敏雄
○三宅　俊成
　メソポタミアにおけるジャルモ期よりウバイド期にいたる文化の変遷

泉　　靖一
◎増田　昭三
◎寺田　和夫
　中央アンデスにおける形成期文化

江上　波夫
泉　　靖一
　文明起源の比較研究における問題点

Ⅴ　デリー諸王朝時代の建造物の研究

班主任　助教授　荒　　松　雄

山本　達郎　　建造物よりみたインドおよびイスラーム文化の交流と変容

荒　　松雄　　デリーに現存するサルタナット時代の遺跡の歴史的研究

月輪　時房　　ヒンドゥー・イスラーム建築技術の交流と展開

Ⅵ　東南アジア研究

班主任　教授　橋　本　秀　一

山本　達郎　　ヴェトナムの村落と土地制度

築島　謙三　　マライ人村落の自治体制

○和田　久徳　　東南アジア華僑社会の変遷

◎大林　太良　　インドシナ半島の葬制

○関　　寛治　　タイ国の政治過程

橋本　秀一　　セイロンの国民所得と産業連関

Ⅶ　中国古代の政治機構

班主任　教授　関　野　　雄

松丸　道雄　　殷周時代の国家構造

関野　　雄　　先秦諸国の経済機構

○小倉　芳彦　　戦国秦漢期の政治思想

◎西嶋　定生　　皇帝制度の成立

松本　善海　　唐代の坊里制と隣保制

○堀　　敏一　　中国古代末期の支配体制

Ⅷ　中国における農村機構の史的研究

班主任　助教授　松　本　善　海

◎周藤　吉之　　宋代郷村制の変革過程

○柳田　節子　　宋代江南デルタ地帯の土地所有制

浜島　敦俊　　明清時代の水利機構

○小山　正明　　明代税役制と農村の変化

○田中　正俊　　明清時代における農村の階級構成

松本　善海　　清代中期における保甲法の展開

○西川　正夫　　清末民国初期における農村機構

佐伯　有一　　中国革命前夜農村における土地関係

Ⅸ　中国における仏教と道教

班主任　教授　窪　　徳　忠

○泰本　　融　　吉蔵における中観思想の形態
○塩入　良道　　中国仏教における人間観
　鎌田　茂雄　　圭峯宗密の思想
　窪　　徳忠　　全真教の成立とその性格
○野田幸三郎　　仏教儀礼の研究

Ⅹ　中国絵画の伝統の創造

班主任　教授　米　沢　嘉　圃

鈴木　　敬
米沢　嘉圃
○川上　　涇
○戸田　禎佑
　　中国絵画に於ける伝統と創造（清時代前期絵画を中心として）

Ⅺ　中国の思想と文学

班主任　教授　窪　　徳　忠

○丸山　　昇　　1920年代の文学
◎小野　　忍　　清末の文学
○野村　浩一　　五四運動期の思想
○竹内　　実　　1930年代の文学
○近藤　邦康　　清末民初の思想史的考察
　木山　英雄　　新文学と旧文学の関係
○新島　淳良　　抗日戦争期の辺区における文学
　山之内正彦　　中晩唐の詩

XII　中国近現代史の研究

班主任　助教授　佐　伯　有　一

山下　米子　　中国民族解放運動史の研究
——第二次国内革命戦争と抗日運動——

佐伯　有一　　労農運動と中国大革命

○野沢　　豊　　抗日戦争期の政治過程

◎古島　和雄　　中国官僚資本の形成とその構造

XIII　現代中国および朝鮮の法と経済

班主任　教授　福　島　正　夫

福島　正夫　　民主集中制とその矛盾

○針生　誠吉　　人民民主独裁の法理

○本橋　　渥　　中国および朝鮮の経済成長とその機構の比較研究

○常盤　絢子　　社会主義経済建設における後進国型とその中国的展開

○福島　　裕　　人民公社の形成過程

梶村　秀樹　　現代朝鮮経済政策史

XIV　中国の国際関係

班主任　教授　福　島　正　夫

○坂野　正高　　英国外交官の中国観

◎衛藤　瀋吉　　昭和二，三年の山東出兵と国際環境

○関　　寛治　　国際体系論と中国問題

XV　東アジア史における日本文化の形成過程

班主任　教授　江　上　波　夫

江上　波夫　　東亜史上より見たる古代日本

◎西嶋　定生　　古代東アジアにおける国際的政治機構

◎井上　光貞　　日本における律令法の受容過程

甘粕　　健　　古墳文化より見たる日本古代国家の形成

泉　　靖一　　内容分析法による日本古代史研究私観

XVI　近代日本の社会と思想

班主任　教授　小　口　偉　一

飯塚　浩二　　高度成長と就業構造の変化

大野　盛雄　　日本漁業の地域的構造

川野　重任　　農業の地域構造

○花村　芳樹　　工業と農業との交錯
——農地転用の地域的分析を中心に——

小口　偉一
◎柳川　啓一
○井門富士夫
○森岡　清美
　　戦後における宗教集団の構造変化

○宮川　　透
○生松　敬三
　　日本文化論

◎丸山　真男　　近代政治思想におけるコトバの問題

築島　謙三　　外国人の日本観